

第1章 荒瀬ダム及び藤本 発電所の概要

第1章 荒瀬ダム及び藤本発電所の概要

第1節 建設事業の経緯

戦後九州では電力事業がひっ迫、特に熊本県においては、県内で発電された電力の約40%が北九州工業地帯に送電されていたこともあり、県内工場は操業短縮を余儀なくされていた。

このような状況の下、熊本県では球磨川の豊富な水を利用し、電力の安定供給、かんがい用水の確保、洪水被害の軽減を目的として、球磨川に7つのダムと10箇所の発電所を建設する「球磨川地域総合開発計画」を1951（昭和26）年に策定し、その一環として荒瀬ダム・藤本発電所を建設した。

建設にあたっては、119戸の家屋移転補償や漁業補償、木材運搬の筏補償、筏の陸送への切換えに伴う球磨川沿岸道路の建設を行った。

ダムの建設は度重なる洪水などにより困難を極めたが、12名の尊い犠牲と延80万人もの建設従事者の懸命の努力により1年10ヶ月という短期間で完成に至り、荒瀬ダムと藤本発電所をつなぐ導水トンネル工事は1954（昭和29）年1月に貫通し、同年12月には発電を開始した。

荒瀬ダムは、1953（昭和28）年3月に本体工事に着手し、1955（昭和30）年3月に完成した。



図- 1.1 建設当時のパンフレット



図- 1.2 荒瀬ダム位置図



写真- 1.1 建設当時の写真



写真- 1.2 建設当時の荒瀬ダム (完成後)